

報告要旨
Strategic Trade Policy and Managerial Incentives
(戦略的貿易政策と経営インセンティブ)

魏 芳 (早稲田大学大学院 経済学研究科)

論文の目的 本論文は戦略的貿易政策と経営インセンティブ契約の関わりという観点から、次の2点について検討する。

- (1) 所有と経営の分離の企業構造が輸出国間の輸出補助金競争に及ぼす影響
- (2) 社会厚生観点から、所有者の経営インセンティブ契約の提示による生産再配分効果と政府の輸出補助金供与による生産再配分効果の相互関係

モデル Brander-Spencer[1985] の2輸出国による第3国輸出数量競争モデルの枠組み内で、FJS型 (Fershtman and Judd(1987) and Sklivas(1987)) の経営インセンティブ契約が政府の戦略的補助金供与のインセンティブに及ぼす影響を検討し、次のような3段階モデルを考える。

- ・第1段階：各輸出国の政府が厚生最大化するように輸出補助金率を決定する。
- ・第2段階：各輸出企業の所有者が経営者を委任し、利潤最大化するように契約を選択する。
- ・第3段階：各輸出国企業の経営者が提示された契約の報酬を最大化するように、第3国向け生産・販売量を決定する。

研究の結果

- 国際寡占市場では、経営インセンティブ契約の生産再配分効果は戦略的補助金供与のレントシフト効果と同一である。各企業の所有者は経営インセンティブ契約を提供し、経営者が直面する自国企業の限界生産費用を低下させる。経営者はより aggressive な生産活動を行い、自国企業の生産量が増加し、外国企業の生産量が減少する。よって、企業の所有者は経営インセンティブ契約を通じて企業に生産補助金を供与できるようになる。
- 経営インセンティブ契約を提示する場合、輸出国政府は過剰な市場競争を押さえるため、戦略的補助金供与のインセンティブを弱める。その一方、企業の所有者はより大きい生産補助金を供与するインセンティブがある。その結果企業側が実際に得た最終補助金が上昇し、各輸出企業の生産量が過大となり、輸出国の厚生が悪化され、輸出補助金の社会厚生に及ぼす歪みが一層拡大される。
- 政府の輸出補助金供与と所有者の経営インセンティブ契約提示の手番は寡占市場のパフォーマンスに大きく影響する。企業の所有者が政府より先に行動する場合、経営インセンティブ契約の選択が企業行動に影響せず、各輸出企業は第3国戦略的輸出補助金モデル下の均衡生産量が実現される。

参考文献

- Brander, J.A., and B.J. Spencer(1985) " Export Subsidies and International Market Share Rivalry. " *Journal of International Economics* 18:83-100
- Fershtman, C., and K.L. Judd(1987) " Equilibrium Incentives in Oligopoly. " *The American Economic Review* 77(5):927-940
- Sklivas, S.D.(1987) " The Strategic Choice of Managerial Incentives. " *The Rand Journal of Economics* 18(3):452-458